地元産業界との連携事業

１．　連携先

株式会社クナウパブリッシング（2022 年 6 月ソーゴー印刷株式会社より社名変更）

２．連携事業における地域の課題及び課題解決に向けて設定した目標

2018 年に人材の育成と交流，ならびに地域社会の発展に寄与することを目的として，本学部とソーゴー印刷株式会社（現、株式会社クナウパブリッシング）が連携協定を締結した。クナウパブリッシングは Slow Life HOKKAIDO として体験型ツアーの企画・運営を行い，中川町と協同してツアー開発を行っている。その中で，若者である学生の視点を取り入れた取り組みの必要性が浮かび上がってきたため，連携協定に基づいて本学部も加わり，中川町の地域課題の解決を目指すことになった。

中川町の具体的地域課題は，長期滞在者・移住者を増やすことであるが，短期滞在のリピーターが長期滞在・移住へと結びついていない現状がある。長期滞在者・移住者を増やすために，人文学部の学生を派遣することによって，人々の繋がりを形成し，中川町の暮らし，環境をソフト・ハードの両面から整備することを目標にする。また，2020～22 年度は、新型コロナウィルス感染症の世界的な流行を受け，それに対応した with コロナ時代／ポストコロナ時代の産業振興・観光振興のあり方を模索することも大きな課題として浮上し，その解決にあたることも目標に加えられた。

３．事業の内容

連携事業の初年度である 2019 年度は町，クナウパブリッシングと一緒に地域のイベントでの出展内容を考えて運営するインターンシッププログラムに取り組んだ。チラシ等をデザインして情報発信し，ディスプレイの制作，店舗装飾などを行い，イベントの日には自分たちでブースを運営する実習を行った。合間には，中川町の産業や自然の魅力に触れ，未開拓の観光資源を自らの関心に基づいて掘り起こした。2020 年度は，道内旅行関係者へのアンケートやインタビュー，オンラインモニターツアーへの参加などを基に，with コロナ時代のツアーガイドラインを策定したり，新たな観光メニューを提案したりした。2021 年度は，①コロナ禍における仕事・観光の形態として注目されている「ワーケーション」をアレンジした「学生版ワーケーション」の実証実験，および②町の温泉施設における未利用スペースを活用したバー（「星屑バー」）の企画・運営に取り組んだ。2022 年度は，前年度取り組んだ町の温泉施設における未利用スペースを活用したバー（「星屑バー」）の企画・運営，とくにインスタグラムのアカウントを開設して広報活動を強化することを目標におよそ 3 か月間（5 泊 6 日の現地実習含む）の実習に取り組んだ。2023 年度からは 3 か年計画で，新たな観光商品の開発に取り組むことなり，2023 年度は参加学生 5 名が 10 泊 11 日の現地実習を含むおよそ 5 か月間のプログラムを通じて，新たな切り口からの観光コンテンツを提案した。2024 年度はふるさと納税寄付額 UP プロジェクトやナカガワファンクラブ会員数 UP など中川町の魅力発信に力を入れて取り組んだ。